

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月7日

上場会社名 かどや製油株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2612 URL https://www.kadoya.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久米 敦司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 高野 純平 TEL 03-3492-5545
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	17,164	4.7	2,073	4.0	2,672	18.8	1,846	17.3
2022年3月期第2四半期	16,391	3.5	1,992	0.8	2,248	11.6	1,573	15.7

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 1,998百万円 (20.2%) 2022年3月期第2四半期 1,662百万円 (11.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	200.71	-
2022年3月期第2四半期	171.01	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2023年3月期第2四半期	39,686		32,146		81.0	
2022年3月期	39,361		31,150		79.1	

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 32,146百万円 2022年3月期 31,150百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭				
2022年3月期	-	0.00	-	110.00	110.00
2023年3月期	-	0.00	-	-	-
2023年3月期 (予想)	-	-	-	75.00	75.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,500	4.0	2,500	△27.5	2,600	△34.4	1,800	△35.0	195.64

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	9,400,000株	2022年3月期	9,400,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	197,307株	2022年3月期	199,207株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	9,201,935株	2022年3月期2Q	9,200,532株

(注) 当社は「株式給付信託（BBT）」を導入しており、期末自己株式数には、信託に残存する自社の株式（2023年3月期第2四半期 11,853株、2022年3月期 13,753株、2022年3月期第2四半期 13,753株）を含めております。また、期中平均株式数は当該信託が保有する株式を考慮して計算・記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、上記予想に関する事項は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な原材料価格の高騰や為替レートの急激な円安等が企業の収益性を圧迫する環境下にあります。また、これらを背景とする生活必需品の値上がりや夏場に生じた新型コロナウイルスの感染者数の再拡大等が、個人消費を押し下げる要因となりました。世界経済においては、各国で物価上昇傾向にあり、米国をはじめとして中央銀行による利上局面を迎えております。また、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や、新型コロナウイルスの感染動向の不確実性等もあり、先行きが不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、原材料価格の高騰や為替レートの円安基調等により、相次ぐ値上げが生じております。一方で、外食産業は、感染症対策の浸透や行政措置の緩和等に伴い外食利用者が増加し、回復傾向にあります。また、食を提供するインフラの役割として、これまで以上に安心・安全を前提とした安定的な事業継続が求められています。

このような状況下、当社グループは、全社的な感染症対策を行い、厳格な生産管理体制の中で、安定的な製品供給の確保に注力しました。また、高騰する原材料コストに対しては、効率化によるコスト削減や製品の販売価格の是正に着手する等、収益性の確保に取り組んでおります。その一方で、中期経営計画「ONE K a d o y a 2025」の施策の一環として、当社製品を使用したメニューにより、ごまの魅力や用途多様性を訴求するカフェ「g o m a t o (ゴマト)」のオープンや、ごまに関する情報交換が可能な双方向性のあるファンコミュニティサイト「ごまラボ」の開設等、「かどやファン」を獲得するための積極的な取り組みを行っております。

ごま油事業におきましては、製品の販売価格の是正を、4月より輸出用、5月より業務用、6月より家庭用で実施しております。この影響等により家庭用の販売数量は前年同期に比べ減少しました。また、業務用及び輸出用の販売数量は前年同期を上回っております。

以上により、ごま油事業全体の販売数量は前年同期比98.2%、販売金額は製品の販売価格是正の実施や輸出における為替レートの円安基調の影響等が寄与し、前年同期比106.1%となりました。

食品ごま事業におきましては、業務用の販売数量が前年同期を上回ったものの、家庭用の販売数量が前年同期を下回り、全体の販売数量は前年同期比99.6%、販売金額は前年同期比99.7%となりました。なお、食品ごま事業は下半期である10月より販売価格の是正を実施しております。

一方、コスト面におきまして、売上原価は、袖ヶ浦工場の償却進行に伴う減価償却費の減少等あったものの、原料価格の上昇及び為替レートの円安基調等に伴う原料代の増、エネルギー価格上昇に伴う燃料費や光熱費の増等により、前年同期比107.4%となりました。また、販売費及び一般管理費は、前年同期にごま油業界初の特定保健用食品である「健やかごま油」の発売に伴うテレビCM等を実施したこと等により、前年同期比96.0%となりました。そのほか、営業外損益において、為替レートの円安進行の影響による為替差益が522百万円（前年同期比443百万円増）発生しております。なお、為替差損益について、原料仕入取引においては、船積み時に確定する精算レートと荷受け時に確定する仕入計上レートとの差で発生し、各時点間の為替レートの差額を収益認識しております。また、輸出取引においては船積み時のレートと入金時のレートの差額を収益認識しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高17,164百万円（前年同期比772百万円増）、経常利益は2,672百万円（前年同期比423百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,846百万円（前年同期比273百万円増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①ごま油事業

ごま油事業におきましては、家庭用は、当社製品を使用したメニューを提供するカフェ「g o m a t o (ゴマト)」のオープンや、ごまに関するファンコミュニティサイトである「ごまラボ」の開設等、中長期的に「かどやファン」を獲得するための施策を行った他、ワクチン接種等の感染症対策が浸透する中で料理教室への協賛等の販促施策や、内食需要に向けてSNSを含むWEB広告施策等を実施しました。また、8月にはごまを煎らずに絞った香りのない非焙煎のごま油をリニューアルし「かどやの太白ごま油」を発売しております。しかしながら、6月より実施した製品の販売価格是正の影響が大きく、販売数量は前年同期に比べ減少しております。

業務用は、5月より製品の販売価格の是正を行ったものの、外食需要の回復等により、販売数量は前年同期に比べ増加しております。

また、輸出用は、4月より製品の販売価格の是正を行ったことにより、例年に比べ伸長率は圧縮され、販売数量は前年同期に比べ微増となりました。なお、販売価格の是正や為替レートの円安基調の影響等により販売金額は大きく増加しております。

一方、コスト面では、売上原価は、袖ヶ浦工場の償却進行に伴う減価償却費の減少等あったものの、原料価格の上昇及び為替レートの円安基調等に伴う原料代の増、エネルギー価格上昇に伴う燃料費や光熱費の増等によ

り、前年同期に比べ増加しました。また、販売費及び一般管理費は、前年同期に「健やかごま油」の発売に伴うテレビCM等を実施したこと等により、前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、売上高は13,222百万円(前年同期比761百万円増)、セグメント利益は1,864百万円(前年同期比140百万円増)となりました。

②食品ごま事業

食品ごま事業におきまして、ねりごまと食品ごまそれぞれで、業務用の販売数量は総菜向けの需要増等により前年同期を上回ったものの、家庭用の販売数量は外食産業の回復や販売価格是正の局面下で販促実施が滞った影響等により前年同期を下回り、食品ごま事業全体の販売数量は前年同期に比べ減少しました。

一方、コスト面では、売上原価は、原料処理量の減に伴い原料代が前年同期に比べ減少したものの、原料払出価格の上昇、エネルギー価格の上昇による燃料費、光熱費の増等が生じており、前年同期に比べ増加しております。また、販売費及び一般管理費は、広告宣伝費の減等により、前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、売上高は3,871百万円(前年同期比9百万円減)、セグメント利益は170百万円(前年同期比70百万円減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ325百万円増加しました。これは現金及び預金が1,187百万円、機械装置及び運搬具が413百万円減少するなどの減少要因があったものの、棚卸資産が1,693百万円、受取手形及び売掛金が171百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ670百万円減少しました。これは未払法人税等が68百万円増加するなどの増加要因があったものの、未払金が294百万円、賞与引当金が255百万円、役員賞与引当金が109百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ995百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益1,846百万円の計上と配当金の支払い1,013百万円の加減算により利益剰余金が833百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表しました業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,148	4,961
受取手形及び売掛金	7,341	7,512
商品及び製品	2,041	2,050
仕掛品	1,057	1,128
原材料及び貯蔵品	6,658	8,272
その他	456	482
流動資産合計	23,705	24,408
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	5,285	5,200
機械装置及び運搬具 (純額)	4,138	3,724
その他	3,336	3,328
有形固定資産合計	12,760	12,253
無形固定資産	348	300
投資その他の資産	2,546	2,724
固定資産合計	15,656	15,278
資産合計	39,361	39,686
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,755	2,800
未払法人税等	751	819
賞与引当金	594	339
役員賞与引当金	163	53
その他	1,883	1,501
流動負債合計	6,148	5,514
固定負債		
退職給付に係る負債	1,734	1,724
役員株式給付引当金	26	19
株式給付引当金	6	7
資産除去債務	182	182
その他	111	90
固定負債合計	2,061	2,025
負債合計	8,210	7,540
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,160	2,160
資本剰余金	3,067	3,067
利益剰余金	26,423	27,257
自己株式	△1,373	△1,362
株主資本合計	30,277	31,121
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	842	1,017
繰延ヘッジ損益	110	83
退職給付に係る調整累計額	△79	△77
その他の包括利益累計額合計	873	1,024
純資産合計	31,150	32,146
負債純資産合計	39,361	39,686

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	16,391	17,164
売上原価	11,027	11,854
売上総利益	5,364	5,310
販売費及び一般管理費	3,371	3,237
営業利益	1,992	2,073
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	18	16
為替差益	78	522
投資有価証券売却益	38	0
雑収入	157	66
営業外収益合計	293	604
営業外費用		
支払利息	1	—
支払手数料	34	3
投資有価証券売却損	0	2
雑損失	1	0
営業外費用合計	37	5
経常利益	2,248	2,672
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除売却損	3	2
特別損失合計	3	2
税金等調整前四半期純利益	2,245	2,670
法人税、住民税及び事業税	575	756
法人税等調整額	96	66
法人税等合計	671	823
四半期純利益	1,573	1,846
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,573	1,846

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,573	1,846
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	81	174
繰延ヘッジ損益	5	△26
退職給付に係る調整額	1	2
その他の包括利益合計	88	151
四半期包括利益	1,662	1,998
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,662	1,998
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,245	2,670
減価償却費	778	735
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△273	△255
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△61	△109
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	15	△5
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	△4	△7
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	5	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
受取利息及び受取配当金	△18	△16
支払利息	1	—
支払手数料	34	3
投資有価証券売却損益 (△は益)	△38	1
有形固定資産除売却損益 (△は益)	3	1
雑収入	△18	△4
売上債権の増減額 (△は増加)	△4	△171
棚卸資産の増減額 (△は増加)	515	△1,693
その他の資産の増減額 (△は増加)	151	△60
仕入債務の増減額 (△は減少)	507	44
その他の負債の増減額 (△は減少)	△494	△276
小計	3,343	858
利息及び配当金の受取額	18	16
支払手数料の支払額	△38	△3
法人税等の支払額	△551	△637
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,772	233
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
投資有価証券の売却による収入	80	16
有形固定資産の取得による支出	△141	△359
無形固定資産の取得による支出	△68	△11
有形固定資産の除却による支出	△1	△6
有形固定資産の売却による収入	0	18
貸付金の回収による収入	0	0
保険積立金の積立による支出	△2	△1
保険積立金の解約による収入	117	46
その他	△3	△120
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22	△420
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	2	11
配当金の支払額	△782	△1,011
財務活動によるキャッシュ・フロー	△779	△1,000
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,970	△1,187
現金及び現金同等物の期首残高	2,846	6,133
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,816	4,946

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	12,461	3,880	16,342	49	16,391
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	12,461	3,880	16,342	49	16,391
計	12,461	3,880	16,342	49	16,391
セグメント利益	1,723	241	1,964	27	1,992

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,964
「その他」の区分の利益	27
四半期連結損益計算書の営業利益	1,992

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	13,222	3,871	17,094	70	17,164
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	13,222	3,871	17,094	70	17,164
計	13,222	3,871	17,094	70	17,164
セグメント利益	1,864	170	2,034	38	2,073

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,034
「その他」の区分の利益	38
四半期連結損益計算書の営業利益	2,073

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。